

## □人間模様（第十五回）

## ひたすら自己をみつめる／洋画家

## 人門 模様 鴨居 玲

重森 守

（元朝日新聞神戸支局長）題字／望月美佐 写真／米田定藏

不思議な魅力を、その五体から漂わせているひとだ。

深くて、あつたかくて、時にはひどく憂愁に満ち、しかも男くさい体臭がぶんぶんおつてくるよ——。

もう六、七年前、何回か三宮の小さなスタンドで会つて、その魅力のトリコになつた。だから「神戸っ子」から「今度は鴨居さんを……」と注文があつたとき、即座にいった。

「僕はあの人惚れているから、悪口も皮肉も書けないなあ。きっと、原稿はメロメロで、しまらないものになつちまうよ」

というわけで、面白くなかったら、ゴメンナサイ。

最初はブラジルからパリへ十年近く外国ぐらし。二度目はスペインの片田舎で五年間。そして先月、ふりりと帰国するや古事・神戸の東灘に落ちついたばかりだ。

“放浪画家”とはいえないでしようけど、五年ぐらいの周期で漂つてゐるつて感じですねえ。

「放浪じやないス。堅実なんです。（フッと苦笑して）

新聞記者していた親父の勤務について歩いて、小学校は三回もかわつたし、動くのは子どもころからの生活のリズムでしてねえ、ごく安易にルンバーンになつてしまふんですよ」

“自分を見失つた”三十歳のころ、ブラジルの地の果て

へ渡つたときは一日一回パンをかじるだけ。ひとのいやがる死体置場の壁画をかいて千ドルかせぎ出し、パリへの飛行機代をひねり出した“実績”を持つ。

「でも、私は臆病だから、とても破滅型にはなれないですよ。ただ、周りがあまり静かで安定してるとダメなんですね。なにか事件に触発されていないと描けない。だから、同じ町にいても年に一度は引っ越ししたりしてね……」

昭和会優秀賞、安井賞、文部大臣賞……と数々の賞に輝き、パリ日動画廊で個展まで開いた鬼才の、なんといふナイーブさ。

「いや、絵に限らず、なにかモノをつくるつてのは大それたことですよ。だから、私生活のなかで何ひとつ犠牲にしないまま続けようというのは厚かましいんじゃないですか」

創造の重さ——それをこのひとが口にすると、ひときわこちらの胸にのしかかってくる想いがする。

「絵を芸術と呼ぶのはちょっと恥ずかしいけど、この世界では一級、一流の作品しかいらないんじゃないかな。誤解されることばだけど、それ以外の人や作品は歴史から忘れ去られて当然だと思うんです。私は血のめぐりがわるいから（一流をめざす）思い上がりを持続してることでしてね」

いや、持続しきれずに絵筆を捨てようとし、挫折感から死さえ考えたことも再三あるらしい。そういうまつすぐな、暗い緊張感が、このひとの作品のすべてに塗りこめられているような気がする。

猫背の老人、サイコロとたわむれる男、首つり、魔兵……人生のどん底でうごめく、生気を失ったような老醜の群れ——。「絵」を理解する力のない僕でさえ、デッサンの確かさと重苦しい迫力に圧倒されてしまうのだ。

どうして、あんな暗い絵ばかりなんですか？

「人間の持つ弱さに興味があるからです。私自身、弱くて醜い人間ですから、テーマは私の中に無尽蔵にあるんです。ほかの絵は、描けません」

表情ひとつ変えず、一気にいってのけて、

「英雄的に生きてきた人間は死にやすいと思うんです。

遠藤周作の『沈黙』に出てくるでしよう、踏絵をとうとう踏んでしまって、神を恐れ、泣きわめきながら死んで

ゆく主人公、あの弱さこそ人間の本質じゃないでしょ  
かねえ」

そんなに一徹に思いつめ、自分の内なるものにばかり

視点を向けていたら、窒息してしまうんじゃないかな。

「いやですねえ、自分でも……。だから、もう疲れますよ」

平均して年間五十点ぐらいしか制作しない。まとめて描いたら、あの半年は遊んで暮らす——というペース。

「惰性で描いたりすると、『こんなへタなのを……』といわれるようない絵しかできません」

画商相場で号（ハガキ大）十万円。「高いですよ。描いた本人が買えないんだから……」というお値段である。

「だれか金持ちのところへ入ってしまうんです。これが



悩みのタネですねえ。かといって、自分でどこかへ寄贈するというのは、思い上りみたいだし……」

「はじめといおうか、思いつめ型と称すべきか、とにかく誠実なのである。雑文を書きとぼしている当方、なにやら消え入りたい気分に襲われ、しばし沈黙……」。

こんなときは女性の話に限る!

「ご覧の通り、役者にしたいような二枚目。さぞモデルでしようが、美女の絵がありませんねえ。」

「ダメですな。きれいな顔かくと、表情がなくなる。人生の妻みたいなシワは、としよりにならないと出でてしませんから……」

絵のモチーフにはならなくとも、実在の女性は愛すべきでしようが……。

「大きらいです。日本の女性の七割は迫力がない。肩のうしろにお父さんやお母さんが覗いている感じでね、何のために生きてるかわからないところがありますね。相手の心が動いたりすると、もうただ泣いて心情に訴えてくるだけ。あれじや相手に罪悪感を植えつけるばかりで、人間的な対話ができませんよ」

「オヤオヤ。なかなか実感的解説。よほど不条理な罪悪感に悩まされたみたい。」

「いや、これでも本人は一生懸命に生きているつもりなんです。あなたならわかつてくれるだろうけど、ちょっとしたズレで周りに迷惑かけて、とやかくいわれましてね……」

「いちど、不覚をとつて『結婚したが、いま実質的には

独身。いや形に添う影の如く、身近にはべる美女がいるとかいないとか。また、武士は相見互い。下司のかんぐりは、やめときましょ。」

「世の中に向かってギヤーッと叫びたいときが青春なら私はいまだに青春。きれいごとばかり申し上げたけど、ほととはキタナーライ人間ですよ」

ほろにがい自嘲が一瞬、彫りの深い表情に走って消えで……、二枚目はいいなあ。

長崎・平戸の生まれ。人ぞ知る、あの下着デザイナー鴨居羊子さんの実弟である。

「子どものころ、図画の時間は遊ぶものと決めていたから、いつも内でしたねえ。それより、私は（こちらをヒタと見て）新聞記者になりたかったんですよ」

冗談じやない。絵かきさんの方がずっとカッコいいですよ。

「いや、絵かきなんて、世の中に意味のない存在だと、自信をなくした時にいつも思いますねえ。それに比べたら新聞は邪悪に対しても筆誅ひづを加えられる。東亜日報のたかがなんか、胸ゆさぶられる想いでいた」

潔癖な正義派、豪胆な親分肌、テレ屋で寂しがり屋：この人の評価は、大体この辺で一致するらしい。

「私、会社勤めしたことないから、人間関係の視野が狭いんです。浪花節人間のくせに浪花節をきらうところもありますね」

「そうはいっても、たとえば夜のちまた、昼の研究所でこの人を取り囲む青年たちの何と多いことか。」

その名も「ゼロの会」——二紀会を脱会した若手組、集団就職くずれ、家出娘（失礼！）……と、なにやら得体の知れぬヤングの集団が百数十人。人呼んで「鴨居玲の親衛隊」——

「何もわからない連中が集団でモノを考える。県立近代美術館の天井を突き抜ける松の木をつくつたり、大砲ぶつ放したり、噴水に洗剤ぶちこみ泡だらけにして、これが作品だ」なんて……。

「私は遊んでもらうとするだけなんです」と謙遜してみせたり、「今度は個人個人にデッサン教えます」と意欲を燃やしたり、「どうも若い人には私の方から甘くなりがちで……」と本音を吐いたり、親衛隊の話になると舌の回転もいささか滑らか。本当に青年たちが好きなんだろう。なにしろ「アミダくじで当たった奴をヨーロッパへ行かせてやる」などと言い出し、本当に実行したことあるんだから。

「ああ、あの話ねえ。実は私が若いころ、先輩の絵かき

に“君もパリへ来いよ”なんていわれて、こつちは貧乏で、それどころじゃない。大いにシラケたことがありますね。それをフツと思いましたから、よーし、

それがタナボタを実現させてやろうということになったんですよ」

痛烈な皮肉と反骨と稚氣。三宮のバーあたりからカンバを募り、たちまち五十万円を集め、その人気も抜群!

で、五年間のスペイン暮らし。収穫はいかがでしたか。

「……いろんな事に出会い、たくさんの人を知った、ということですかナ」

どうして神戸へ“帰つて”きたのですか？

「ミラノかメキシコか日本へ、と考えてたんですね。日本なら神戸。やはり、太陽の輝いてる神戸が好きなんでしょうね。ここで死にたい、いや、生活したいと――」

おっ、いい直しましたネ。じゃ、また次はどこかへ――？

「メキシコですねえ。ラテン系は好きなんです。白人と黄色の接点ですから……」

また、ちょっと出かけてくる？

「いつも“ちょっと”なんですよ。五年なんか、アツという間のこと。（悲しげに）学、成り難いです」

微笑

が浮かんだ。深く、にがく、くらい微笑だった。



愛犬チータのぬいぐるみ?も登場。おかえりなさい鶴居玲さん。

きものと細貨

# おんぐら屋



東京 本部・仕入部  
神戸 本店 市街地改造により工事中  
さんちか店 神戸市生田区三宮町一丁目一  
銀座コア店 東京都中央区銀座五丁目八一〇  
渋谷東急店 東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一  
日本橋東急店 東京都中央区日本橋通一丁目九二  
(四階和装名家街) 東京都豊島区南池袋一丁目二八一  
(四階和装名家街) 電話 ○三一一一〇五一 (代)  
池袋バルコ店 東京都豊島区南池袋一丁目二八一  
(四階きもの小路) 電話 ○三一九八七〇五六 (直)

こどもの日の

## 楽しいプレゼントに…

— たくましい子を祝う武者人形は  
おもちゃのカメヤで —



おもちゃの



# カメヤ

三宮方面でのお買物は…  
さんちか店 ヴァミリー タウン ☎ 391-4045  
三宮 センター ブラザ ☎ 331-4969  
元町方面でのお買物は…  
元町店 元町通3丁目山側 ☎ 331-0090  
パンプウ店 元町通1丁目不二家前 ☎ 391-0768  
神戸駅前面でのお買物は…  
サンゴーラ店 神戸駅前地下街 ☎ 351-6002

★神戸の集いから

★大入り満員、大盛況

ノエの眼に思わず涙

「結婚するバカしないバカ」を2月14日に発行したアナウンサーのノコこと小山乃里子さんが2月19日貿

カモカのおおちやん夫妻、表紙絵の鴨居羊子さん、馬場章夫夫妻、織田正吉さん、佐藤廉さんらが次々とお祝いのスピーチならぬスピーカー。出版記念パーティといふ歌。

小西保文、山本文彦……と会員に加え、来賓として招かれた佐藤廉、森本泰好、野木良郎、西正興、岩島雅彦、木村憲吾とおなじみの顔がニコニコと集つた。

放映されている「こんにち  
は！奥さん2時です」に小  
曾根実とコンビで出演して  
いる近衛真理△元宝塚スター  
のミニ・コンサートが  
去る3月12日(土)午後7時



お祝いに駆けつけた人々。ドレスがステキな?ノヨネ



七

★おかえりなさい鴨居玲さん——神戸二紀会例会

3月6日生田会館で神戸二紀の例会が開かれた。

スペインより帰国の鷗居玲画伯の歓迎会、第22回神戸二紀展の反省会、第二回女流展を開くにあたっての報告会など和気相々のうちに進行なわれた。神戸二紀の行なわれた。

司会にのせて、ラジオ関西の青木啓さん、乾龍介さん推薦文を書いた田辺聖子、



神戸三軒はいつも新しい



鶴屋玲さんと挨拶する中西勝さん

の言葉に答える麗尼さんの軽妙な挨拶、シシ舞ならぬセントバーナード舞が飛び出したり、歌つたり、歌つたり人が100円出したり、とにかくにぎやかだった。

時からサロモン戸時代で開かれた。ピアノは矢野正徳さんで、近衛真理さんは得意なジャズのスロー・バラードやスタンダードナンバーを歌つてファンは大変な喜びようであった。

の言葉に答える鶴居さん。軽妙な挨拶、シシ舞ならぬセントバーナード舞が飛び出したり、歌ったり、歌つた人が100円出したり、とにかくにぎやかだった。

ちょうどこの期間は壁面  
は「川西祐三郎画伯」の版画も展示されていて参加した人は「絵があつて素適な歌を聞いて、お酒があつて会話がある。やはり、これらのこんな集いはぜひ楽しみたい」と大喜びであつ



三三三三共上に集まつた人物



# 動物園飼育日記 -128- 亀井一成



訪中シリーズ(7) 小猫熊レッサーパンダ



「いや、ほんまに、この寒さむちやくちゃでんな！」

まさしく氷河期到来のきさしだ」と取りざたされた今冬の異常寒波。わが神戸でも史上最低記録マイナス六度が連日続いた。

しかし、耐寒マイナス二十七～三十度というホッキョクグマにペンギンご一家。さらにはシベリヤオオカミ一属はさすがであった。積雪の夜。どれもこれが入室を拒否。凍てついた屋外に出っぱなし、真っ白な終夜を楽しんでいた。

四年前の十二月二十七日。室温20℃以下にしてはダメすぎま風に弱い。大声。物音。絶対に触れてはいけないともかく腫れ物にさわるごていねいなる輸入業者のご注しやく耳にしながら二頭のレッサー・パンダが到着。受入側の我々の見識からでは考えられない過保護ぶりに反論されえた。だがその獣医であるご家族からご注言だからということから赤外線などで暖房。扉のメバリさえしてしまった。

その年はむしろ暖冬異変とさえいわれ、しのぎやすい越冬だったが、間もなく一頭が死亡。残る一頭も過保護によるノイローゼ。そこで解放すべきと考え、氷点下であろうと土を踏ませる屋内外自由行動飼育に踏み切ったらどうだろう。からだはひきしまり、毛なみはいちだんとさえ、オスの風ほうさえ整ってきた。そればかりかつりさえしてしまった。

「おどろく人なつっこさ」「あつ！あんなところに、ほんまもんのエリマキがひつかかってる！」

その毛色と毛並の良さは古くから貴婦人たちにとつての高価なファッショングである。



広州動物園のレッサー・パンダ

れあいを探す行動つまりマーキングさえ見せる彼に我々は新しい嫁探しと相なったのである。

だが、ネパール、中国の雲南省、それにビルマ北部に分布するレッサー・パンダも入手がきわめて難かしくその一年後、二頭のメスが連れさせながらも到着したことはまさに幸運といえた。

だんまり飼育よりも呼びかけるおしゃべり飼育。それに何よりも半夜行性である彼等に夜の自由を与えようと、終夜屋内外自由。いや、たとえ寒かろうが、彼等に『寝ぐら』をえらばせる。いいかえれば言葉がわるいが、『放たらかし飼育』を続けた。

その三頭になったレッサー・パンダご一家がまた、この極寒の今冬にも一夜として入室したことがない。氷点下の連日を屋外で、しかも地上でも地下でもなく二メートルという屋根の上にごろ寝をきめこんでいるのである。

鋭い鉤爪をもつ彼等は木登りがたくみで餌を食べたあとはほとんど木上に身をひそめている。それがまた、プラス三十五～六度という猛暑からマイナス二十七～三十度という温度差にも動かないのは、何故だろう。それは彼等と生棲園を同じくするアジアの獣王、トラなどへの防御行動ではなかろうか。丸太作りの屋上に胴長よりも長く、ふんわりと大きな尾をくるりと器用に巻きつけふとん代り、三頭がまるでおしくらまんじゅう。寄りかたまつて寝ているのだ。

115

れるのがこわいのしようかい、それとも生きている彼等にすまなく思うのかも……。

さて、大声・物音・触れてはダメ。とんでもありません。まるで家ネコ。見てる我々がはらはらお客様の姿さえ見えたなら、するすると身軽るにハシスを登り、近寄つては金網越し、首から、背、さらには太い尾を、あのネコと同じ、眼を細めこすりつけてくる。それがまたどんなにでも、可愛さをふりまいてくれるのです。

もちろん例外もあるが、総じて攻撃的な態度を見かけたことがない。(網やオリでの捕獲時は別)

#### 〔真冬のラブシーン〕

さて、さらにまた、この寒風の中、しかも少しでも暖かな日中ではなく、早朝と夕暮れどきである。そのまるまるついた太い尾をピンとのばし、しゃなりと歩きだしたメスが地上に降りる途中、木かぶにちよいとお尻をこすりつけはじめた。どうだろう。その性臭に刺激されたオスたち二頭。全く同じコースを歩み、同じ木かぶを鼻で嗅ぎ、鼻先を空にひと呼吸やっている。つまり、メスのさそいにのつているわけだ。

こうなると二頭が争つてメスへのプロボーズが始まつた。だが待てよ! 確かにオス一頭の処へメス二頭を輸入したはず。それなのに追尾するのは二頭。行動を仔細に見るうち、性器も見え、どうやら、オス二頭のよう。到着時捕えて性別差エックをすべきこと、あえてしなかつた。いや送つて頂いた相手方からもメス二頭と書類にも記されていた。これ全て云詫けでしかない。

二月末。約十日間でそのラブシーンは終つてしまつたが、すでに我国では北海道と九州で繁殖している。それでも誕生すれば関西初。いや、何番めであろうとかまわない繁殖をめざした飼育を基本とすべきこと私の一貫した信念なのだから……。



王子動物園のレッサー・パンダ

昼に弱く夜に強いという夜型。それにまた、何よりも再認識させられたのは、一〇〇〇メートルの高地に生棲しかも耐寒性に強くその毛皮からしてもまさしく冬の動物なのである。

#### 〔食性〕

飼育下のエサはバナナ、煮サツマイモ、ミカン、リンゴ、牛乳、オートミール、パン、卵、サトウキビ、それにタケやササの葉。

ところで食事とき、つい争いを見せる他の動物とは少々ちがつて。何しろ大陸的。育ちの良さがしのばれ、同じ所に寄りかたまっては口を揃えて食べ続けている。それがまた、ご一家寄り添つてのディナータイム。そのまだたとえよく馴れようが、食事中の動物には手を出さないことが常識となつていて。

だが、レッサー・パンダはその常識さえ要らない。口にしているものでも相手に取られっぱなし。ゆつくり食べひと口食べては、またオリの中をひと回り。そしてまた食物をとるというほんまに、おとなしいパンダたちである。

△王子動物園学芸員／写真も△

ところで昨年八月に訪中一ヶ月。天津、北京、西安、廣洲、上海、と各動物園を見学、かのジャイアントパンダ十九頭を見聞。その都度、隣り合せに飼育されてたレッサー・パンダもまた仔細に見てきた。

体重四キロ少々、身軽な彼等は日中ほとんどを一〇米という高い樹の葉蔭で、ゆらりゆらり風にゆれながら眠つていた。だが、夕暮れにはが然動きだし、さつと地上に隣りでは食前食後、ササをゆつくり、あのパンダ座りに腰をすえ食べ続ける。

# ★神戸の催し物ご案内

4月

△音楽▽

アリス

3日(日) 2時 神戸文化大ホール

ル A・二〇〇〇円 B・一五〇〇円

★布明

4日(月) ①3時 ②6時半 神戸文化大ホール

B・一五〇〇円 A・三〇〇〇円

★大阪フィルハーモニー交響楽団

6日(水) 7時 神戸文化大ホール

ル 民音／一七〇〇円 一般A・

二五〇〇円 B・二〇〇〇円

指揮／アラン・ロンバート

★沢田研二

7日(木) ①2時 ②6時 姫路文化センター

A・三〇〇〇円 B・一五〇〇円

★佐藤陽子ヴァイオリニーサイタル

9日(土) 6時半 善屋ルナホール

ル 前売・一五〇〇円 当日・一八〇〇円

★レーモン・ルフェーブル

レーモン・ルフェーブル



ロンドン・ピアノ・トリオ

21日(木) 6時半 神戸国際会館

A・二〇〇〇円 B・一五〇〇円

指揮／手塚幸紀 ピアノ／伊藤ミラン

★太田裕美・森田公一とトップギャラ

22日(金) 6時半 神戸文化大ホール

○円 A・一七〇〇円 一般S・二〇

・二五〇〇円 A・二二〇〇円

★ロンドン・ピアノ・トリオ

23日(土) 6時 神戸文化大ホール

○円 A・二七〇〇円

★神戸大学マンドリンクラブ

24日(日) 6時半 神戸国際会館

○円 A・二四〇〇円

★アブリーレコンサート

25日(月) 6時半 県民小劇場

○円 A・二四〇〇円

★神戸女学院大アメリカ民謡クラブ

26日(火) 6時半 県民小劇場

○円 A・二四〇〇円

★市原映画名場面集

27日(水) 6時半 神戸国際会館

○円 A・二四〇〇円

★神戸フィルハーモニー交響楽団

28日(木) 6時半 神戸文化大ホール

○円 A・二四〇〇円

★デューケエイセス



伊藤ルミ

30日(土) ①3時 ②5時45分

神戸文化大ホール 前売・一五〇〇円

○円 当日・二〇〇〇円

赞助出演／神戸放送児童合唱団

★青年座「からゆきさん」



東恵美子



久世龍之介

●愛読者優待席

神戸っ子読者に左記のステージを割引優待致します。

★レーモン・ルフェーブル グラ

ンド・オーケストラ

★ロンドン・ピアノ・トリオ

4月11日(月) 6時半 神戸国際会館

S・三〇〇〇円 A・二七〇〇円

B・二四〇〇円 をそれぞれ一割引

★エンリコ・マシアス

4月22日(金) 7時 神戸文化大ホール

S・三〇〇〇円 A・二五〇〇円

B・二〇〇〇円 をそれぞれ一割引

★新国劇「無法一代」「田村」

5月2日(月) 6時半 神戸国際会館

S・三五〇〇円 A・三〇〇〇円

○円 をそれぞれ一割引

★松山バレエ団「白鳥の湖」

4月25日(月) 6時半 神戸国際会館

S・四〇〇〇円 A・三五〇〇円

B・二二〇〇円 をそれぞれ一割引

★新国劇「忠治」「辰巳柳太郎」

5月4日(水) ①1時 ②5時半

神戸国際会館

○円 をそれぞれ一割引

★市原映画劇場「リレー落語東の旅」

5月13日(水) ①16時(土)

神戸文化大ホール

○円 前売・八〇〇円 小人・五〇〇円

★市原映画劇場「地の塩」

5月13日(水) 6時半 神戸文化大ホール

○円 前売・八〇〇円 小人・五〇〇円

★白鳥の湖

5月24日(日) 10時 神戸国際会館

○円 A・三〇〇〇円

★マルチエラ

5月29日(祝) 2時 神戸文化大ホール

○円 A・二八〇〇円

★神戸文化大ホール前売・一五〇〇円

B・二二〇〇円 C・一五〇〇円

★デューケエイセス



辰巳柳太郎

# 創造のアイデアがある街

□出席者△神戸百店会メンバー△

永田 良一郎△永田良介商店社長△

下村 光治△神戸風月堂専務△

島田 光夫△つるや衣裳店社長△

鳥越 哲△神戸眼鏡院専務△

安達 昭三△フナキヤ社長△

川飛 毅△どんかつ武藏専務△

## ★外国人に接した良さがにじみ出た街

川飛　来年、青年会議所の全国大会を神戸で開催するんですが、その前に問題になるのが神戸らしさ、神戸とは何かということなんですね。神戸は山と海とに狭まれた東西に長い街であることが一つの特徴ですが、それを有効に使えば何かができると思うんですね。

安達　元町の商店街にはPR委員会というのがあります、近畿エリ亞に神戸をPRしようではないかという目的で、昨年テレビ用のコマーシャルフィルムを作ったんです。その時に神戸の良さというものを追求してみると誰もが承知の、海があって山があって、異人館があり、外国人がいたために発展してきたといいうわゆる神戸ら

しい食べ物屋があつて、というような絞り方でしかコマーシャルフィルムを作るにはとらえどころがなかつた。それが神戸の良さやということが結論的になつてフィルムを作つたんです。何が神戸の良さなのかという最もむずかしい問題にあたると、外国との接点ですべてのものをいちばんよく神戸流にこなして日本人向けにアレンジして発表してきたというアイデアマンの集合のようなものが神戸の評判として今日まで続いていっているんではないだろうかとモヤモヤしたこと神戸の良さのひとつみたに感じますね。

島田　港町、海、というイメージはね、昔はもっとあこがれ的でしたね。

永田　どちらかといふと懐古趣味的な対象として、いわゆるハイカラということばがピッタリするような感じで



下村光治さん



永田良一郎さん

若い女の子たちに受けてるみたい。神戸の雰囲気というのは、使つてみて初めて良さがわかるというようなもので、切り売りしてもダメですね。神戸の街が百年で育ててもセレクトする目とかね、そういうものを総合したのが神戸の良さでしょう。

下村 外部からみると、"神戸"ってのは今のところまだカッコイイんですね。売れるんですね。何にしても神戸の人間が仕入れたもの、作ったものというのが、神戸の人間の目でもつて見た商品だからこれはまあええもんじやなかろうか、と外部の人たちにも認識されてそれが購入される可能性があるんじゃないかなとダメな時代なんですね。

### ★アーケードのない青い空のみえる商店街

鳥越 京都や奈良は史蹟が多いところで、ただ観光でそれを見てまわるだけだった京都や奈良のほうがいい。一概に否定できるものではないけれど、それは歴史が止まってるんだと思うんです。神戸の場合はそういう史蹟が動いていて現在の世の中にマッチしている。それは何かというと、情報が交換できる場であるとか、人間が欲しているものが神戸から生まれ出ているとかいうことです。これが神戸の一一番自慢できることじやないかと思う。要はこのままでいると、何年か経つと京都や奈良と同じになってしまふ。ここで気がついてさて何をしないといけないかというと、商売人がそのような神戸という恩恵を受けながらそれにマッチする動きを日々重ねていくということなんですね。

島田 商店街にしても街の通りにしても、自分のところの前だけという感覚でなくして、通りとしての、また街全体としてのものを考えないといけないです。

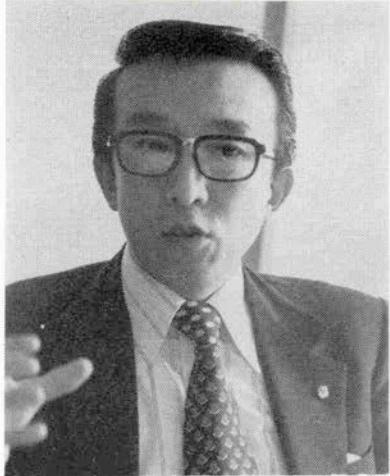
永田 神戸の明るさを出すアーケードのない商店街をつくつていかないといダメですね。このごろ思つてゐるんですけど、アーケードというのは商店街のそれぞれの店の個

売につながつてゐるんじやないかと思いますね。ところがそんなに神戸があるいは神戸のものがいいのだったらいつへん行ってみようということで、来てみると何だこんなものかっていうようなことにならないように気をつけなければいけませんね。

永田 港があつて外国人に接した良さが自然にじみ出てたのが今までの神戸の持ち味でしたけど、今後それを維持していくには、我々自身が神戸らしさを強調していくといけない時代に入ってるんですね。今非常にものはやされているのを維持していくのに、今まで努力しなくとも良かったけれど、もう努力していかないとダメな時代なんですね。



川 飛 毅 晋 さん



鳥 越 哲 さん

性を出すうえでひとつめの弊害になつてゐる気がするんです。都市計画で真っ白な建物の中にはおり込んでいたり、いいつて店ではなくて、それぞれの店が個性をもつた店構えをし、その個性をもつた商店というのを売つて、それが神戸の良さだと思います。アーケードで上を全部かくしてしまつと画一的になつてしまつて、自分の店がいつたいどこに位置しているのかもわからず、ただアーケードの下と店内さえ考えればいいようになるんですよ。個性ある店作りをする努力を失わせてしまうようになるんじゃないかなと思いますね。

鳥越 哲さん  
鳥戸は中に入つてでしか感じること、わかることができない街ですね。だからそれだけにホンモノでないといけないんです。神戸には地道につくりあげたものがあるから、それをもつと強調していく、それにムードが必要でね、そのムードというのには例えば青い空があるとかということですけど、とにかく神戸の街の総合体で雰囲気づくりをしていかないといけないんです。アーケードの問題でも、どこかの街で初めてアーケードを使い始めてそれが成功したから神戸に導入したんじゃないと思うんです。つまりこれは他からもつてきたものなんですね。神戸は創り出すアイデアを持っていますのだから神戸から生まれ出たものでないと必ずぶつかりがあるんですね。ひとつめの例だけど、海外から人が来て東京や大阪へ行きますでしょ。そこから流れで神戸にやつて来るんですね。神戸はあまり他にPRされていないから、何となく神戸に来てるわけなんですね。ところが神戸に来てものすごく良かったという。単純だけれど青い空、山あり海あり、色彩が人間に合うっていうんですね。

安達 いい方を換えればね、要するに“洋”という字、洋食、洋家具、洋酒、洋間、洋服、そういう洋の字をはぶける街が神戸なんですね。神戸では洋服は“服”でいいわけ。洋という字をあえてつけなくていいのが神戸なんです。異人館っていうけど、その“異人”を異人でなくしたのが神戸の精神だと思うんです。ワインシャツを作ったのも、服の縫い方を一生懸命習つたのも神戸だし

島田 ひとつずつの店それぞれに個性がないといけないんですけど、バラバラに建てると街並み全体が雑多な感じになつてしまつ。整然とした都市美というか、量が多いとわりと整然としてくるんですが、そうなるとこんどは逆に個性がなくなつてくる。建物の高さも都市美に関係してくると思うんです。今のアーケードも高さの加減をごまかしているカサのようなものですよ。街並みを作るうえでは、高さをそろえての個性ある店を集合させるのがいいんじゃないかなと思いますね。



島田光夫さん



安達昭三さん

ね。

★神戸ではニセモノはダメですね

**島田** 神戸の人は個性的というか、見る目が厳しいのか、神戸ではニセモノはダメですね。個性的といふと、誰もが思ふところですが、神戸では、どうも違和感があるのですね。(笑)

**鳥越** 他のといつしょだったら嫌なわけなんです。自分

の独創性がいるんですね。神戸の場合は他からもつてき

た流行ってのは嫌いなんですね。神戸で流行を作ると、神

戸の人間がただやつてゐるだけのことなのに神戸の魅力になるんですね。

安達

植民地都市とちがつて、自分でみがかれたセンスとアレンジのうえにたつてセレクトしますから、商売するにしてのむずかしさがあるんですね。東京のミユキ族とか青山族とかは、親元を離れた無責任な人間が多いんですね。文句をいわれるところがないから自分のしたい恰好ができる人たちでああいう特殊なファッショニ

なるんですね。神戸では絶対に売れない。みんな親元にいて、アンタ何シテーンノ! つていわれる。髪にしても、早よ刈りなさい! つていわれるんなかなか長髪族が増えなかつたのも神戸。

**永田** 世間の狭さつていうことやね。それはやはり大事にしないといけない。

**鳥越** 神戸は狭いから地道にホンモノを作りだすことをするんですね。狭いからそれだけ商売人が神経を使って神戸全体としてのファッショニ都市、情報都市というムードがでてくるんじやないでしようか。そこで段階的に考えていいかないいけないけれど、青年会議所でよくいいうのが、国際会議都市というようなイメージにもつていけないものかということです。そこにはもう一つ上のレベルでも情報が集つてくる。いわゆるカニ族的なレベルの人たちでなくして、もう少しちがつたレベルの外部の人

が集つてくるんじやないかと思うんです。しかも断片的に少しずつこなしていくだけではダメで、何らかの機関で意志統一をする必要があるんじやないかと思う。

**川飛** ファッショニ都市神戸としてやつていくには、地元の商店はもちろんのこと、そういうものをを目指すんだという目的のもとに全市的に足をそろえていかないといけないです。着る物はもちろんファッショニだけれど、食べ物も家も街も道も全部がファッショニだと考へて、それぞれの形で参画していくことが必要なんですね。

★神戸ファッション市民大学OBによるグループ

＜神戸のファッション都市化をめざす＞

K. F. S. news 19

事務局／神戸市生田区元町通2丁目37村田ビル  
デザインルームナカハラ内 TEL 391-4768

●2月マンスリーサロン 大谷武司講師による「新しい消費者層について」



中華書局影印

「一九七〇年代の社会は予測しにくい変化の時代といわれますが、国家になるといわれますから、大谷武司さんもおられるところです。」

大谷武司さん

「一九八〇年代ではもっと窮屈な快適度の少ない統制的

論調査でも退屈、落胆などを表わす黄色や灰色が未来の色と出ています。こういう時代にこそ企業が消費者だけでなく生活者に、生産、販売促進といった総ての企業活動を含んだマーケティングが必要です。今までの荒い地ならしを目的とした大量生産のマス・マーケティングの時代は過ぎました。もつときめの細かい地域の独自性を活かした人の心に訴えるようなマーケティングに需要が高まってきたんですね。『人間学』といいうのかな。だから企業は商品にしても『物』を作つてはだめなんですね。今までは附加価値といわれてきたフィーリング、五感に訴えながら特に考えなければなりませんね。消費者の欲望を想像して先取りした企画をたて小さ向が強いようです。神戸などは市民性から生まれてきたバーソナルローカル色が豊かです。な市場の中でユニークな商品づくりが求められるでしょう。」このとのディスカッショ

師に迎えて「新しい消費者層について」と題した興味深々な内容だった。

会員ニュース

ンでは会員から積極的に意見も述べられ活気のある会だった。

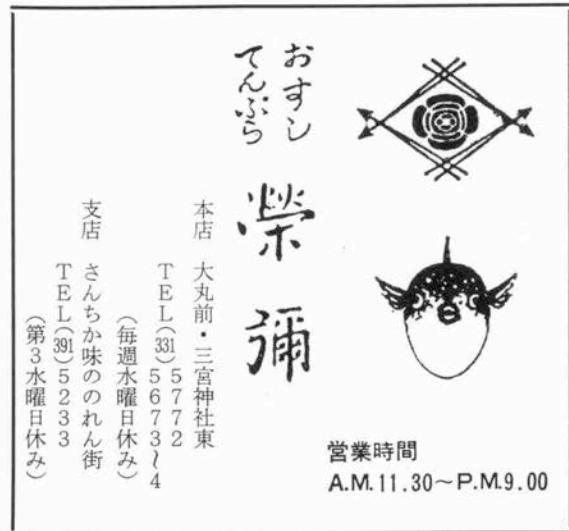


大西節子文

西条幹男さん

のファッショングランプリが兵庫県及び商工會議所共賛)の「兵庫県洋裁技能協会主催(兵庫県及び商工會議所共賛)」と二回開かれます。4月2日は講師に立角長三さん(「第一声」と題した講演とバイリーナン縫製技術指導を窪田茂子さんが行ったあと、袖戸丸店服飾デザイナーの大西節子さんによる講演があります。西中西省伍さんは「ハーフ・パンツ」とによる「クリエイターはこれからどう生きるべきか」をテーマに講演と同じく窪田さんによる技術指導ですか。両日とも午前9時から午後5時まで、場所は県民会館10階で、料金は3千円、3千円、2千円です。受講者は修了証書が貰えます。皆さんは洋裁技能協会事務局(361-0161)か服飾ミロード21-3205まで。

K  
S  
F  
S  
4月例会・春のツバメ  
京都市内観光△西陣織物・友禅染め見学△  
日時 4月17日(日)京都駅午前9時半集合  
会費 2000円+昼食込み・貸切バス△  
定員 48名△どなたでも参加できます△  
申し込み先 デザインルームナカハラ内  
☎ 391-4768まで。



こんにちは赤ちゃん



中熊知一くん／兵庫区会下山町

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

## 芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大橋町1番18号  
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)  
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

## 幼児歯科 小児歯科

SAMOTO PEDIATRIC DENTISTRY

佐本小児歯科

### 母親教室

(初診日) 火曜日 午前9時30分  
金曜日 午後1時30分  
(木曜日は休診)

そごう前センター街東角・さんちか入口  
住友銀行三宮ビル6階

〒650 生田区加納町5丁目39  
TEL (078)331-6302~3



# ★神戸つ子トラベルコーナー

KO 小泉バー・ティ  
ご案内

★小泉バー・ティとは

結婚を希望する男女に交際の場を提供し、良きパートナーを見出すお手伝いをいたします。

結婚に関する一切のコンサルタント、カウンセラーにも応じます。

この度趣味を通しての新しい出会いの場として、美術愛好会、芸術愛好会、レジャー愛好会、文学愛好会、音楽演劇愛好会を発足いたしました。

★ 第2回東アフリカサファリと最後の楽園セイシェル  
日程／8月11日(木)～8月22日(月)

費用／¥579,000  
定員／13名  
申し込締切日／6月10日(金)  
費用に含まれるもの／航空運賃、食事代金(3食付)、ホテル代金(スタンダードクラス)、手荷物代金(一人20kg)、サファリ・バス、添乗員サービス費用に含まれないもの／渡船手続実費、パスポート、予防接種及び手続料、クリーニング、電話料、飲食等の個人的費用、20kgをこえる手荷物料



雄大な大自然を満喫できる東アフリカ

★ 受託者サービス企画  
ハワイツアーアイ  
日程／6月7日(火)～6月12日(日)

費用／¥139,000  
定員／40名  
大阪発→東京→ホノルル→東京→大阪着  
ハワイアンハットディナーショー、ボリネシア文化センター、シーライフパーク、カウアイ島、ハワイ島のオブショナルツアーなど滞在中の昼夕食、オプショナルツア、個人的費用、空港税、国内費用、渡航手続費用などは費用に含まれません

★ ゴールデンウィークリーズ  
1 ヨーロッパデラックス9日間  
日程／4月28日(木)～5月6日(金)  
費用／¥453,000  
大阪発→東京→リスボン→マドリッド→パリ→東京→大阪  
2 ソウルツアーアイ3日間  
日程／4月28日(木)～5月6日(金)  
費用／¥453,000  
大阪発→台北  
3 台北ツアーアイ4日間  
日程／4月30日(土)～5月3日(火)  
費用／¥135,000  
ホテル／Aクラス  
大阪発→ソウル  
4 ハワイツアーアイ6日間  
日程／4月30日(土)～5月5日(木)  
費用／¥255,000  
ホテル／Aクラス  
大阪発→台北

★ 歴史と神話の国ギリシア  
エーゲ海クルーズ  
日程／4月23日(木)～5月5日(火)  
費用／¥595,000  
東京発  
東京→アテネ→ミコノス島→ドス島→クレタ島→サントリ→ニ島→ビレウス→イスタンブール→アムステルダム→東京着  
余裕をもって、味わいのある場所をニーケンな方法で旅をします

★ スプリングバーティー  
ご案内  
とき／4月23日(土)午後6時より  
ところ／ニューポートホテル  
かいひ／¥5,000円  
春の宵のひとときを食事、ゲームダンスなどで楽しむございませんか。申し込締切は4月17日

神戸市夏合区浜辺通六丁目3-1  
三ニューポートホテル一F  
一三一号  
二五二一三八〇  
★ 小泉バー・ティ事務局

毎月開催休・一〇時～一八時

万年雪をいたなくキリマンジャロから昇る雄大な朝日、大草原原ゆっくりと沈むゆく夕日、見渡す限りの動物の群……。こんな雄大な大自然が東アフリカです。  
お申し込み、お問合せはドット  
ウエルトラベルサービス神戸(登合区磯上通8-1-3-7、明治生命ビル)担当／島村  
費用／¥255,000  
Aクラスホテル(朝食4回・昼食  
021まで)



細川邸での“フランス料理を食べる会”

ママゴンにささげるバラード④  
かわいそなアソシ



娘の幻覚



母の幻覚



Mrs. Green

# 英語で相談に応じます

—新しいカウンセラーにミセスグリーンさんが着任

橋本 明 （社団法人「家庭養護促進協会」事務局長）

一昨年の十月にカナダ人女性のカウンセラー、グレアム夫人を招いて始めた、関西在住の外国人のための英語による相談事業も軌道にのり、ずい分多くの人たちから相談を受け、また外国人、日本人から多くの協力の申し出をいただいた。グレアム夫人は昨年の三月にカナダへ帰国されたが、わずか三ヶ月間に三十四件の相談を受け、その内容も国際結婚のトラブル、留学生のノイローゼ、仕事、教育、医療、児童問題などさまざま分野にわたり、複雑なものであった。同一人種、言語、宗教などをもつ島国で生活をしている日本人にはちょっとと考えられないような複雑な文化的背景の絡み合った問題が起こつてくる。ところが自分の育った国を離れて外国で生活をしているといざという時に自身も、信じあえる隣人もいない場合、言葉や制度、習慣の相違などからどこにも援助を求めることができず、孤立していきづまってしまうことがある。そんな時に、何でも気軽に自分の国の言葉で専門家が相談にのってくれる場所が地域の中に一ヵ所でもあればよい分安心して生活ができます。

今年の二月からはイギリス人女性、メリーリー・グリーンさんをカウンセラーとして迎え、新たな組織づくりを始め、いつでも英語相談に応じる態勢をとっている。

グリーンさんはイギリスのマンチエスター大学で社会福祉の勉強をし、さらに社会事業家としての専門資格をとり、病院の小児病院での長い臨床経験をも積んでいる。

また、十年間インドで生活した体験もあり、外国暮らしの難しさや外国で生活をしている人たちの立場や問題への関心や理解も早い。

グリーンさんは昨年の十月に初めて来日し、現在はご主人と神戸に二人暮し。イギリスには22歳、19歳、12歳の三人の子どもがいる。日本での滞在は約二年間。

英語でのカウンセリングを希望される方は左記へお気軽に申し込みください。

★相談日 每週月曜日 午前十時～午後四時

★場所 神戸市生田区橋通三の一 総合福祉センター二F 家庭養護促進協会

★相談内容 外人相談室 電話〇七八一三四一五〇四六  
家族、結婚、教育、医療、児童問題などどんごとも結構です。  
一五〇〇・三〇〇〇円。日時は前もって電話でご予約下さい。

# ENGLISH COUNSELLING DIVISION

Counselling services for the English speaking members of the Kwansai community are available through the Kobe office of the Association for the Advancement of Family Care. Personal, family, marital or educational counselling can be arranged by appointment with Mrs. Mary Green. She will be at the Kobe office between 10 a.m. and 4 p.m. on Mondays; appointments can be made through the office for mutually convenient times on other days. Confidentiality will be maintained.

Most people in the normal stages of growing and learning throughout life and particularly under bi-cultural stress, feel the need for the counselling services of a trained and experienced counsellor, from time to time. Fortunately now, in Kobe The Association for the Advancement of Family Care is offering again through its office a service which is vital to the English-speaking community.

The Association for the Advancement of Family Care is a Japanese organization (Katei-Yogo Sokushin Kyokai) with an office in Kobe at The Kobe

City Fukushi Centre on the Second Floor. The address is 3-1, Tachibana-dori, Ikutaku, Kobe, which is close to the Kosoku Kobe station of the subway. Kosoku Kobe is the second stop west from Sannomiya and the Fukushi Centre is opposite Minato-gawa Shrine. Parking places are available.

The Association is incorporated under Japanese law and funded by grants from all levels of government, private donations, and membership fees. The Association has recognized the needs of the non-Japanese members of the community for counselling and is offering space and office facilities at the Kobe office.

Mrs. Mary Green is a newcomer to Japan having arrived with her husband in the autumn of 1976. She has three children in the United Kingdom; a son of 22, a daughter of 19 and a schoolboy son of 12. She has spent 10 years in India and has already experienced the difficulties, as well as the pleasures, of life in a foreign environment.

She is a graduate of Manchester University with a degree in social administration and has a postgraduate Certificate of Training in Social Work from Manchester Polytechnic. She has experience in family casework, in working with young people and in the hospital setting. Immediately before coming to Japan she worked in the paediatric dept. of a district general hospital where family problems were very much to the fore. Her training has included work in schools and she is very aware of the educational problems raised by residence abroad. She has also worked with old people.

The counsellor and location guarantee for the client a nonsectarian, private, and confidential situation in which to work out solutions and alternatives to problems of human relations and growth. Counselling fees will be charged according to income and number of dependents. Applications for interviews are encouraged by telephone (078) 341-5046.

